

県内大型建設プロジェクト

～コロナ禍と災害への対応力～

はじめに

熊本地震から5年5ヵ月が経過した。本年3月には阿蘇の主要幹線道路が完全復旧し、4月にはJR熊本駅前に「アミュプラザくまもと」がオープンするなど、震災復興や今後の飛躍に向けた大型プロジェクトは着々と完成を遂げている。また、本年6月には本県と九州各県の主要都市とを結ぶ「熊本県新広域道路交通計画」も公表され、都市間のアクセス拠点としての役割を担うことが期待されている。

本稿では、県内で進む大型プロジェクトを、震災や豪雨などの自然災害の教訓や、コロナ禍対応の視点を交えて紹介する。

1 阿蘇くまもと空港

(1) 災害とコロナ禍への対応

阿蘇くまもと空港は、国内線・国際線共用の新旅客ターミナルビルを本年1月に着工した。同ビルは、2023年の完成を目指している。現在、基礎工事が進行しており、その概観が見え始めている。

同ビルは繰り返しの地震にも耐えうる構造を備えるとともに、電源や通信、上下水道などのライフラインを確保。また、最先端機器の導入によりファストトラベルの推進を行う。チェックインから搭乗まで非接触型の手続きとすることで、ウィズコロナを見据えた新型コロナウイルス感染症への対策も強化される。

工事中の新旅客ターミナルビル



(2021年8月7日 筆者撮影)

(2) 空港へのアクセス

空港へのアクセスの改善について、鉄道の新設が検討されている。また、本年6月に県と熊本市により策定された「熊本県新広域道路交通計画」には、熊本市中心部から連絡する「熊本空港連絡道路」が新規に盛り込まれている。

新鉄道についてはJR三里木駅と空港を結ぶルート案が計画の基本となる。同ルート案にて事業費等の試算がなされているが、コロナ禍の影響を踏まえた乗客の需要予測における採算性などの課題が残る。

新道路については、鉄道に遅行して検討が進められるとみられる。ルートや事業主体については未定であるが、新鉄道計画と合わせて利便性向上に期待される。



(図：熊本県HP)

2 花畑広場オープンスペース

花畑広場オープンスペースは、「桜町・花畑地区オープンスペース整備事業」により2021年秋に整備完了を予定している。同事業は、シンボルプロムナード及び花畑広場の新規整備と辛島公園及び花畑公園の再整備で、「熊本城と庭つづき まちの大広間」をコンセプトにデザインされる。整備面積は約14,800㎡となる。

コロナ禍を契機とし、居心地のよい屋外空間の利用ニーズが高まっていることもあり、中心市街地の魅力向上に期待できる。また、同スペースはアミュプラザ熊本と「まちなかループバス」で結ばれており、熊本駅との回遊性も向上する。

なお、災害時には一時避難場所に指定される予定であり、ペットボトル1万本分の飲料水の提供が可能となる耐震性貯水槽や、非常用電源等が配備される。

熊本城（北側）を望むオープンスペース



(図：熊本市HP)

シンボルプロムナード・(仮称) 花畑広場



3 県央広域本部・防災センター合築庁舎（仮称）

現在、県庁10階に位置している防災センターは、県央広域本部との合築にて新設工事が進められている。2022年度内の完成を目指しており、総事業費は約100億円となる。

熊本地震の教訓から「大規模災害にも円滑に対応できる」よう、1、2階へと移し、十分な広さを確保する。延床面積は約9,970㎡（うち防災センター：2,637㎡）となる。

気候変動により自然災害の増加が懸念される中、レジリエンスを高め、県民の安全性を確保する体制を整備する。また、防災拠点施設として必要な機動性・機能性を確保するだけでなく、新型コロナウイルス等の感染症対策にも配慮するべく、諸室のレイアウトや什器の整備がなされる予定。

工事中の県央広域本部・防災センター合築庁舎



(2021年8月8日 筆者撮影 完成イメージは現場外壁より)

完成イメージ



TOPIX

－ 令和2年7月豪雨からの復興－

1. 豪雨被害の状況

令和2年7月豪雨は県南を中心に、各地に甚大な被害をもたらした。同豪雨による県内の死者は65名。行方不明者2名。公共土木被害額は1,452億円^{※1}と、熊本地震(1,379億円^{※2})を上回る被害額となった。復興中の各地の現況についてレポートする。

※1※2 国および熊本を除く。

2. 各地の現況

(1)人吉・球磨地区

①復興商店街「モゾカタウン」

豪雨災害で被害を受けた店舗が、現在仮設商店街「モゾカタウン」で営業を行っている。モゾカタウンは人吉駅前および、くまりば（人吉市まち・ひと・しごと総合交流館）に位置し、感染症対策が施された数多くの飲食店などで賑わいをみせている。

復興商店街モゾカタウン（人吉駅前）



「道の駅」でこぼん（上）、芦北海浜総合公園（下）

②くま川鉄道

JR人吉駅に隣接する人吉温泉駅から湯前駅の24.8kmを球磨川沿いに結んでいるくま川鉄道は、全線で運休中となっている。近隣住民の移動手段の確保のため、現在はバスによる代行輸送の措置が取られている。



(2)芦北地区

佐敷川の氾濫による浸水や、土砂の流出などの被害を受けた芦北地区では、現在砂防工事が進められている。また、水没により機器が故障するなどした観光施設は現在営業を再開している。

「道の駅」でこぼんは昨年9月より完全復旧済み。芦北海浜総合公園では一部使用不可の施設があるものの、今年4月から営業を再開している。



工事中の球磨川流域道路

(3)八代地区

八代市から人吉市を結ぶ球磨川流域道路では、橋梁が流出するなどの被害を受けた。現在は被災した橋梁のうち一部が通行可能（工事車両、地域住民のみ通行可）となっており、他の橋梁、道路についても工事が進行している。



(2021年8月1日 筆者撮影)

4 その他のプロジェクト等

プロジェクト名		完成予定	事業概要、課題など
広域道路			
高規格道路	熊本環状道路		
	熊本西環状道路	2025年度	熊本市北区下硯川町～南区砂原町間の約12kmを結ぶ自動車専用道。整備区間（北区下硯川町～西区池上町間の約9km）のうち下硯川IC～花園IC間（約4.1km）は2017年3月に暫定2車線で開通済み。花園IC～池上IC間（約4.6km）は2025年度の開通を目指している。
	植木バイパス	2022年度	熊本西環状道路～国道3号（延長0.9km）の区間において、主要な構造物である下硯川橋（仮称）の下部工事が完了。2022年度に開通を予定している。
	熊本北バイパス	2022年度	植木バイパス同様に、下硯川橋（仮称）の下部工事の完了に伴い、国道3号～須屋高架橋交差点（延長1.8km）の区間が2022年度の開通を予定している。
	中九州横断道路	－	熊本市と大分市を結ぶルートで整備中の約120kmの高規格道路。2020年10月に開通した国道57号北側復旧ルートは、中九州横断道路の一部と位置付けられる。正式決定すれば中九州横断道路で県内初の開通区間となる。
	九州中央自動車道	2023年度 (嘉島～矢部)	嘉島町と宮崎県延岡市を結ぶ全長約95kmの高規格道路。県内計画約44kmのうち嘉島JCT～山都中島西IC（約12.6km）は開通済み。山都中島西IC～矢部IC（約10.4km）については2023年度に開通する見通し。矢部IC～県境間（約21km）においては事業化へ向けて評価が行われている。
	熊本天草幹線道路	2023年度 (本渡道路)	熊本市と天草市を90分で結ぶ全長約70kmの幹線道路。県と国が共同で整備に取り組む。松島有料道路（約3.3km）、松島有明道路（約10km）、三角大矢野道路（約3.7km）を共用済み。残る区間のうち、大矢野道路（約3.4km）と本渡道路（約1.3km）については県が、宇土道路（約6.7km）熊本宇土道路（約3.8km）、宇土三角道路（約13.5km）については国が整備を進めている。
熊本県新広域道路交通計画にて新規に追加			
	熊本市圏北連絡道路	－	熊本市圏における循環型ネットワークを構築する。熊本市圏から九州中央自動車道ICまで約10分、熊本空港まで約20分で繋がる。
	熊本市圏南連絡道路		
	熊本空港連絡道路		
構想路線	八代・天草シーライン	－	八代外港～上天草市松島町（約8.8km）を繋ぐ海上道路。大きく迂回する必要があった同区間が約10分で移動可能。
	阿蘇山都道路	－	阿蘇市、山都町、宮崎県高千穂町をそれぞれ結ぶ。広域観光周遊ネットワークの構築、および災害時における交通経路の拡張が期待される。
	阿蘇高千穂道路		
	有明海沿岸連絡道路	－	有明海の北・東側で、熊本県、福岡県および佐賀県の3県に跨る地域高規格道路。福岡県大牟田市三池港ICと荒尾市を結ぶ連絡路が本年度着工予定。熊本方面への延伸としては初となる。
施設関係			
災害復旧	人吉スーパーシティ	2027年度	豪雨災害を受け策定された、人吉市復興基本方針では、復旧・復興を強力に推進する取り組みの1つとしてスーパーシティ構想の実現による未来型復興を目指す。
	八代市役所新庁舎	2021年 10月	熊本地震により被災し、仮設庁舎となっていた八代市役所の新庁舎が今年10月に完成を予定している。同庁舎には免震構造を採用。停電時でも最大14日間の電源供給が可能な非常用発電機や、井戸の設置による水源の確保など、災害活動拠点としての役割も持つ。
	旧東海大学 阿蘇キャンパス	2023年度	震災被害後の断層調査で今後のキャンパスとしての利用を断念。熊本地震震災ミュージアムの中核拠点として利用されることが決定している。
ニュー ノーマル	荒尾ウェルビーイング スマートシティ	2024年度	荒尾競馬場跡地である345,000㎡の土地に、スマートシティの実現を目指す。ICTを用いたセンシングによる健康増進や、再生可能エネルギーの域内活用、自治体MaaSによるモビリティなど、住民が最先端のウェルビーイングを享受できる未来都市の創造を目指す。
中心市街地 活性化	パルコ跡地 星野リゾートホテル建設	2023年 春	解体後のパルコ跡地に建設中の、ビル内のホテルを星野リゾートが運営する。同ビルは地上11階建てで、ホテルは3階～11階。星野リゾートの熊本県への進出は初。熊本市の「新たな街のシンボル」となることを目指す。
	(仮称) 熊本市新市街 ホテル・店舗複合開発 プロジェクト	2022年 4月	熊本市が進める「まちなか再生プロジェクト」において第一号案件となる「高さ基準の特例承認」を受け、高さ基準である海拔55mを超える地上12階のホテル・店舗複合施設（高さ46.65m、海拔59.95m）の開発事業を東急リパブルが受託。2020年7月末より本体工事に着工している。

資料：各市町村のホームページ等より当研究所作成